

領域	科目名	単位	時間数	対象学年	開講時期	担当講師
統合分野	統合援助技術	1	30	3年次	4月	橋口 清美
授業概要 基礎看護学で学んだことを土台に、各看護学で学んだ内容を臨床現場に即応した看護内容および方法として統合し、実際に活用できることをねらいとする。						
到達目標 1. 臨床現場に即した状況設定下で自己の対応能力を認識し、対応できる。 2. アセスメント能力、状況判断能力、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力などの看護実践に求められる能力を高める						
使用教材 テキスト： 系看 専門Ⅱ 成人看護学 [2] 「呼吸器」 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学 [5] 「消化器」 医学書院 系看 専門Ⅱ 成人看護学 [10] 「運動器」 医学書院 はじめてのフィジカルアセスメント メディカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学②「基礎看護技術Ⅰ」第4版 メディカルフレンド社 新体系看護学全書 基礎看護学③「基礎看護技術Ⅱ」第3版 メディカルフレンド社 看護診断ハンドブック 第10版 医学書院 よくわかる看護者の倫理綱領 照林社 参考文献等：						
評価 レポート 実技評価 授業参加状況・態度も評価に加点する						
授業計画						
時間・回数	授業内容					方法
10時間・5回	1. 統合援助技術のねらいと授業方法 2. 第一部：事例1 1) 複数の看護技術を要する1名の患者への看護実践 (1) 看護過程の展開 (2) 確実な技術の提供 (3) 対象の状態の変化に応じた看護の優先度の判断					講義 実技
14時間・7回	3. 第二部：事例1+事例2 1) 2名の患者への看護実践 (1) 2名の患者の看護計画の立案（設定された場面） (2) 確実な技術の提供 (3) 状況の変化に応じた看護の優先度の判断 (4) チームの連携					講義 実技
6時間・1回	4. 2名の患者への看護実践評価 5. リフレクション					
備考 実技内容については講義中に説明する						

